

高齢者のためのイノベーション

～加齢に伴う虚弱や障害に対処するために～



日時： 2014年6月24日(火) 午後2時～4時
場所： WHO神戸センター

(神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 I.H.D.センタービル9階)

2020年までに、世界の人口は76億5446万人に達すると予測されています。このうち、60歳以上の人口は10億1684万4千人(世界人口の13.28%)に上る一方で、5歳未満の子供の人口は6億5719万9千人(同8.58%)にとどまる見込みです。すなわち、世界の人口統計は、いま、確実かつ急速な高齢化というこれまでにない変化を示しています。今回のフォーラムでは、WHOの専門官が日本の専門家3名とともに、障害・福祉機器・地域社会に根ざしたりハビリテーション・義肢装具教育など、それぞれの分野から実証に基づいた研究成果や現状について発表します。また、高齢者が現在抱えている、あるいは、これから直面する可能性のある虚弱や障害といった課題に向けていかに取り組むべきか、イノベティブな福祉機器を用いての対処策を報告、提案します。

会場(WHO神戸センター)周辺図



JR「灘」駅より徒歩10分
阪神電車「岩屋」駅より徒歩8分

プログラム

1. 講演

「高齢者のためのイノベティブな福祉機器
～加齢による虚弱や障害に対処するために:
概要」

(登壇順・敬称略)

世界保健機関 (WHO) 本部
障害とリハビリテーション テクニカルオフィサー
チャパル・カスナビス



「高齢下肢切断者の義足歩行」

国際義肢装具協会 (ISPO) 日本支部 会長
兵庫県社会福祉事業団 福祉のまちづくり研究所長
兵庫県立リハビリテーション中央病院
ロボットリハビリテーションセンター長
陳 隆明



「日本の義肢装具教育の沿革: 地域社会に
根ざしたりハビリテーション実践の経験から」

兵庫県立リハビリテーション中央病院 名誉院長
澤村 誠志



「日本の義肢装具教育:
福祉用具学導入とその背景」

熊本総合医療リハビリテーション学院
義肢装具学科 学科長
小峯 敏文



2. 討議 (オープン・ディスカッション)

主催: WHO神戸センター(WKC)・WHO神戸センター協力委員会

協力: 国際義肢装具協会(ISPO) 日本支部・兵庫県社会福祉事業団 福祉のまちづくり研究所

お問い合わせ: WHO神戸センター(WKC)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 I.H.D.センタービル 9階
電話: (078)230-3100 ファクス: (078)230-3178 電子メール: wkc@who.int

講演

「高齢者のためのイノベティブな福祉機器 ～加齢による虚弱や障害に対処するために：概要」

チャパル・カスナビス (WHO本部 暴力・傷害の防止と障害部局 障害とりハビリテーション テクニカルオフィサー)

1979年、インド・ムンバイのAll India Institute of Physical Medicine & Rehabilitation の義肢装具エンジニアリング学部を卒業。リハビリテーション科学修士(英国・ストラックライド大学)。14年間のインド社会福祉省勤務の後1994年の退職を機にNGOモビリティ・インディア(Mobility India)を設立、9年間にわたりその活動を主導。その後、WHOに移り現職、地域社会に根ざしたリハビリテーション(Community-based Rehabilitation-CBR)と福祉機器の普及に取り組む一方でCBRガイドライン作成に尽力している。『人は誰しも、加齢に伴う機能低下を避けて通ることはできません。しかし、老化がもたらす虚弱や障害、そして孤独感といった課題は、歩行器や車椅子、人工装具、補聴器や低視力者用補助具、また、日常生活動作を補助する機器やモバイルアプリケーションなどの福祉機器(AT)の活用により、予防、抑制、さらには矯正することが可能です。これまで障害を持つ人達のために開発・改良されてきたATは、高齢化社会を迎えた今、加齢に伴う虚弱や障害といった高齢者のためのニーズに応えることが期待されています。』

「高齢下肢切断者の義足歩行」

陳 隆明 (国際義肢装具協会日本支部 会長 兵庫県社会福祉事業団 福祉のまちづくり研究所長 兵庫県立リハビリテーション中央病院 ロボットリハビリテーションセンター長)

1986年徳島大学医学部卒。1992年医学博士(神戸大学)。同年より兵庫県立総合リハビリテーションセンターに勤務、2006年から同中央病院整形外科部長兼リハビリテーション科部長、2011年からはロボットリハビリテーションセンター長も務める。多くの障害者に大きな恩恵をもたらすロボットテクノロジーのリハビリテーション分野への応用、特に筋電義手の普及に尽力している。2014年4月からは兵庫県立福祉のまちづくり研究所長として、「安全・安心まちづくり、すまいづくり支援等の研究」、「福祉用具やリハビリテーション支援技術等の研究開発」を主導している。『近年、超高齢化を背景として、動脈硬化や糖尿病といった疾患が下肢切断原因の主なものとなっています。その結果として、下肢切断者に占める高齢者の割合が大きくなっています。義足で歩くことは、成壮年の切断者にとっては大きな困難ではありません。しかし、義足歩行を獲得するためのリハビリ過程は高齢者にとっては大変困難な過程であり、リハビリの成功率も低いのが現実です。専門性の高いスタッフによるチームアプローチが成功のための重要なカギと言えます。高齢者の義足歩行について紹介したいと思います。』

「日本の義肢装具教育の沿革：地域社会に根ざしたリハビリテーション実践の経験から」

澤村 誠志 (兵庫県立リハビリテーション中央病院 名誉院長)

1955年神戸医大卒、整形外科入局。その後、米国UCLA義肢教育プロジェクトで義肢製作研修を受ける。1969年兵庫県立総合リハビリテーションセンター開設後、副院長、院長、所長職を歴任、2001年より、顧問、名誉院長として現在に至る。専門領域である整形外科、義肢装具、地域リハビリテーションについての著書、講演多数。1995～1998年には、国際義肢装具協会(ISPO)会長を務めた。『父が下腿義足者であり、尚かつ義肢製作者であったことから義足の研究を目指し整形外科の道を選びました。1955年頃の日本には、義肢装具に関する教育は皆無であり、また、関連職種間の連携の場もありませんでした。そこで、1968年日本義肢装具研究同好会が神戸で発足、これが現在の日本義肢装具学会につながっています。1990年に立ち上げた日本リハビリテーション病院施設協会では、障害のある人々や高齢者およびその家族の支援を目指し、地域に根ざしたリハビリテーションを実践しています。』

「日本の義肢装具教育：福祉用具学導入とその背景」

小峯 敏文 (熊本総合医療リハビリテーション学院 義肢装具学科 学科長)

1982年国立久留米工業高等専門学校卒。1985年国立障害者リハビリテーション学院義肢装具学科卒。1994年佛教大学通信教育部社会福祉学科卒。1985年～1988年には米国・Leimkuehler Inc.にて義肢適合士研修、1988年米国義肢適合士取得、1988年義肢装具士免許取得。義肢装具士教育においては、国立障害者リハビリテーション学院を経て、1994年より熊本総合医療リハビリテーション学院、1996年より現職。『義肢装具士は関係医療職種に含まれますが、非常にユニークな職種です。疾患や障害を抱えている方々を対象として、義足・義手・装具といった用具を製作し、適切に身体へ適合することを専門としています。高齢化が進む日本では介護保険制度等の方策が取られています。車いすや杖といった福祉用具も多様なものがより広く用いられるようになってきましたが、適切に使用者に適合しているでしょうか。義肢装具士養成においては、義肢装具以外の身体適合を必要とする福祉用具にも焦点を当てた講座を開講しています。講演では幾つかの臨床例を紹介しながら、直面している課題を提起します。』

討議(オープン・ディスカッション)

参加者からの質問や意見を募り、公開討議を行います。

* * * * *

《参加申し込み方法》 申込締切：2014年6月20日(金) 必着

下記事項をご記入の上、電子メール、ファクス、または郵送でお申し込みください。(先着 80名：参加費無料 言語：日本語)

【申込先】

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 I.H.D.センタービル9階

WHO神戸センター WKCフォーラム事務局

Tel: 078-230-3100 Fax: 078-230-3178 Email: wkc@who.int

WKCフォーラム 参加申込書

「高齢者のためのイノベーション ～加齢に伴う虚弱や障害に対処するために～」

2014年6月24日(火) 14:00～16:00

ご氏名 (ふりがな) ()	TEL
所属団体・役職名	FAX
ご住所	E-mail

※ お申し込み後、参加証等は発行いたしませんので、当日は直接会場までお越しください。

日程の変更、定員超過等でご参加いただけない場合に限り事務局よりご連絡させていただきます。

※ 複数での参加ご希望の場合は、必要項目をリストにしてお申し込みいただいても結構です。

※ 本申込書による個人情報、WHO神戸センター及びWHO神戸センター協力委員会のご案内等の目的で使用させていただく場合があります。